



FURISANKI
COMMUNICATIONS
GROUP
Opinion
Magazine

正論

昭和49年5月2日
第3種郵便物認可
平成16年11月1日発行
(毎月1日発行)
通巻第349号
産経新聞社

創刊31年記念号

撮影
秋山庄太郎
[太地喜和子]

11

2004
SEIRON



【新連載】上坂冬子の自問自答

戦後補償裁判大検証

軽々しく歴史を裁く司法に

正義なし 高池勝彦/石川水穂

今こそ呪縛“憲法と歴史”漂流からの決別を

安倍晋三/櫻井よしこ

“坂の上の雲”をめざして
再び歩き出そう 石原慎太郎 VS. 八木秀次
歴史教科書「日露戦争の項」に登場する人物 上杉千年
偏向度NO.1の共同による教科書採択報道 藤岡信勝
新しい歴史教科書に反対するサヨクの妄動 中宮崇

江沢民の反日路線を批判した
人民日報論文を読み解く

鳥居民 vs
金美齡

やりたい放題の中国と媚売る日本の活動家 時沢和男
日本人が虐殺された中国・通州事件の現場 宮崎正弘
内閣法制局に挑んだ提言「憲法問題を解く」 御厨 貴

このままでは自民党は崩壊する 松原仁/城内実/米田建三

このままでは自民党は崩壊する 保守政治は再生できるか

鼎談



衆議院議員・
まつはら・じん
松原 仁



衆議院議員・
きうち・みきの
城内 実



帝京平成大学教授・
よねた・けんぞう
米田建三

消滅しつつある自民党の支持基盤

米田 七月の参院選は、明らかに自民党の敗北でした。比例代表という政党間の戦いである選挙において、自民党の得票率が三〇・〇三%であったのに対して民主党が三七・七九%と明快に差をつけられた。またその後の各種世論調査でも民主党の支持率が自民党をやり一〇ポイント近く上回る状況が続いている。このままでは、自民党は次の総選挙では政権を失うのではないかと囁かれていきます。

戦後日本の一大勢力だった伝統的左翼は消滅しつつあると

言われていますが、一方で、保守の基盤もおかしくなっているのではないかと、政治の基軸が全体的に崩れたのではないかとという危機感を前提に、自民党に限らず保守総体の再生は可能かどうか話し合っていきたいと思っています。

城内 参院選での自民党の敗因は三つあると思います。第一は脇の甘さ、です。当初六十議席は取れるのではないかと考えるほど楽観的でした。年金法案にも、イラクへの自衛隊派遣や多国籍軍参加についても、自民党が一生懸命努力していることは国民が分かってくれているはずだと考えていた。結果はあの通りだったわけですが、私としては小泉首相はじめ党幹部には、特に年金法案についてはもっと真摯に国民に訴えてほしかった。理解される、理解されないは別として

指す「安倍プロジェクト」の一員だけれども、どういうことが課題になっているのか説明して下さい。

城内 安倍晋三幹事長は、党改革・検証推進委員会の委員長として、委員会の中に党改革実行タスクフォースを設置しました。私もそのメンバーです。密着性が高いとされてきた候補者選別に透明性を持たすための公募制の本格導入や、新人の出馬機会を増やす世論調査実施要求制度の導入、有能な人材を確保しておく候補者プール制度の創設などを改革案としてまとめています。このほか、「政治と金」の関係の透明化、政策立案能力の向上を目的としたシンクタンク創設なども目指しています。一連の改革で、「保守政党」としてのスタンスも明確にしていくことができると考えています。

私は候補者選定プロセスの改善を担当しています。今までの候補者選びでは現職・元職が優先されていて、現職に甘んじている候補があつてなく負けてしまうことがままあつた。そういう候補者を減らして、勝てる候補を立てようではないかということです。とくに空白区については、地元と党本部が一体となって選考委員会を作って候補者を選んでいく。

米田 しかし、理念なき、泥臭いだけの地方議員たちをシャットアウトするくらいのことをしてほしいという候補を選べないんじゃないの。

松原 先ほど国民政改ではなくなつてしまつたと述べましたが、そういう自民党の特色の一つが党改革を邪魔すると思います。つまり、自民党国会議員の中に占める二世、三世議

員、官僚出身の議員が多過ぎるということです。

シュンペーターという経済学者が「創造的破壊」ということをいつています。成功している企業は大規模な創造的破壊をしている。一旦、根本から壊して創り直すという作業を経ている。そうではない企業は、大体三十年ぐらいて潰れている。創造的破壊をするというのは大変なことで、既得権を守ろうとする人間にはできない。二世、三世議員も総論的には改革に賛同するでしょう。しかし、個別議題になつたら全力で先代の利権を守ろうとする。省庁から出てきた人は、その省庁の利益を守ろうとする。

もちろん二世、三世議員もすべては否定しません。政策の一貫性、継承性を考えるならばいい。官僚出身議員もいい。しかし、それが政権第一党の半数以上を占めた時は、「創造的破壊」が機能しなくなる。今の自民党には、優秀な人もいるだろうけれども、既得権を守ることの弊害がわかつていながら、自分の後援会や支援組織のことを考えたら改革できないという人が多い。二世、三世、官僚出身議員がおそらく六割から七割いる。民主党にも二世、官僚出身議員はいますが、二〇数%ですよ。

城内 創造的破壊という観点からすると確かにそうだと思いますが、有能であれば二世、三世を否定すべきでないし、官僚も政策の企画立案という点では有能だと思えます。

民主党批判になつて申し訳ないのですが、わけわからない人もいます。親しくさせて頂いている方のなかには、思想信

条もかなり近いなと思えるしつかりした一年生議員の先生もいます。だけど、礼儀作法もわきまえない非常識としか思えないような人たちがかなりいる。ある意味で破壊力はあるのかもしれないけれども(笑)。一年生議員同士を比べると、自民党は女性もいない、二世や官僚出身議員も多いけれども、いい意味で安心感、安定感、そして責任感がある。一方で民主党の一年生議員を見ると、「この人たちに政策を任せたくない」という気になるぐらいの方もいる。既成のモノを壊して、結果がよければいいけれど、逆に日本を悪くしていくんじゃないか。そうゾクッとするものを感じました。

自民も民主も保守の理念政党として再生すべき

米田 一にも二にも、いい候補者を自民党は立てないといかない。この仕組みをどうするの。党外の有識者を交えた候補者選考委員会を中央と各都道府県に全部作って、その審査を通らないとだめというぐらいの仕組みを作る必要があるんじゃないか。

松原 しかしね、政治はそうはいっても、自力で候補者のポジショニングをもぎ取ってくる人間も求められる。蛙の川のほりみたいなもので、個人のバワフルな要素もみる必要がある。だから両面ですよ。

米田 それは政治家経験者として分かる。論文試験や面接

試験の成績がいいことと、政治家として有能かどうかは別の話。ただ、お粗末でもなんでも遠い上がってきたやつは、合格のハンコを押すという旧来のやり方は変えていかなきゃいけない。政治が本来持つべきダイナミズムを殺さない形で、なおかつ、どう優秀な候補者を生み出すか、ということですね。

城内 私は三十九歳、比較的若い衆議院議員ですけれども、世代間のバランスが必要で、ベテランの議員にもいてほしいし、最前線で戦う行動力ある若い議員にもいてほしい。男女共同参画ということではありませんが、やはり女性の議員もある程度いないと、いかにもイメージが悪い。有権者の半分は女性なんですから。

米田 良きにつけ悪しきにつけ、党の中央、言い換えるならば国会議員のリーダーシップが強くないと党総体の改革はできません。ボトムアップといって、地方ボスの発言力が従来通りだったらどうにもならない。自民党の場合、小選挙区の国会議員には地方議員の公認権など地方組織に対する権限が殆どないでしょう。これでは、地方議員は国会議員の応援なんかしなくても、県連のボスの顔色だけを見てればいい、となる。

松原 民主党では、今後のどのような国家ビジョンや政策を主流にできるのかが問われています。民主党が今回支持されたのは、昔の社会党が政権与党への批判票を集めたのと同じ構図があったという点是否定できないかもしれませんが、

民主党に新保守を見出そうと支持してくれた人も多いと思っています。新保守とは、自由を導び、サッチャーやレーガンの改革の理念を戴く思想だと思っています。新保守を党内で主流の一つの指針、理念として確立し得るかどうかが、この戦いに勝利すれば、日本の将来にとって大きな意味があると考えています。

米田 自民党で、「政権党だから」「ロータリーの続きだ」と思っただけの人、党が「こうだ」といえば従う部分がある。しかし、民主党の場合は左翼の確信犯もいる。あれは追い出さないとだめだよ。

松原 しかし、自社連立政権で、村山富市元首相は「自衛隊も合憲」と言いました。「左」の連中も支持組織の關係で「左」といつてないと困るから「左」といつているところもあるし、議論しているうちに違ってくる人も随分いると思う。勢いを持ったほうにみんななびくんですよ。

米田 随分いい加減な話だね。民主党も理念政党として質を高めることが求められているんじゃないの。自民党について言えば、与党でなくなっても自民党でやるというぐらいの人間が集まって贅肉をそぎ落として再出発する必要があると思うよ。

松原 少数でも先鋭的な志ができれば、それは明治維新の志士と一緒だ。

米田 そうすると再び熱心な自民党支持者が集まると思う。いったん下野しても構わない。

松原 違う党名だね。

城内 私は自民党という名前の中から変えていきたいですね。松原先生にも新生自民党に来ていただく。私は将来、思想的にも近い松原先生とは同じ政党にいたような気がなんとなくするんですよ（笑）。

松原 いや、自民党では変わらないね。

城内 変わると確信しています。立場上言っているのではなくて、そういう流れを自民党の中核にしていくなかと思っただけです。実際に入ってみて感じましたが、若手にも発言権があるし、派閥も形骸化しています。

米田 若手に発言させておいて、出てくる結論は違うほうに予め決まっているのよ（笑）。

松原 時々若手のハネツ返りも入れないと格好つかないから、発言させる。ボスは所詮お芝居だと思っただけと聴いている。猿山と同じだね。民主党も政権を取ったらそうなるかもしれないからあんまりひと様のことはいえないけど。

基本的には日本国民はドラスティックな改革を望んでいるんですよ。マキャベリが言っているように、ゆっくり改革するよりも思い切ったやるならば、抵抗勢力もマスコミだって非難できない。だから自民党の改革で本当に中枢が命がけで燃えれば、みんな勢いに押されてついてくるんですよ。

米田 いずれにせよ、日本のために保守政治の立て直しを求められているなかで、お二人のように理念と情熱あふれる若い政治家に頑張っていただいたいと思います。

も、です。

第二に、民主党は年金改革関連法の採決にあたって牛歩戦術をとったり、ピケをはったりと前時代的な行動をしました。しかも厚生労働委員長の解任決議案を出しながら、長時間の演説をしたり牛歩をしたりするというおかしいことをやっていた。ところが、そういうルール違反をする野党のおかしな姿をあまりマスコミは取り上げない。マスコミ対策も結果として十分ではなかったと思います。

第三は、先ほど米田先生が懸念を示された自民党の存続にも関わることでありますが、勝てる候補をたくさん立てていなかったということ。横山ノックさんや青島幸男さんのような

松原 仁氏 昭和三十一年（一九五六年）東京都出身。早稲田大学商学部卒業。松下政経塾、都議会議員を経て、平成十二年の衆院選で民主党公認候補として初当選、二期目。衆議院災害対策特別委員会理事。民主党「次の内閣」総括副大臣（防災担当・科学技術担当）。拉致議連事務局長代理。

城内 実氏 昭和四十年（一九六五年）東京都出身。平成元年、東京大学教養学部卒業。外務省入省。在ドイツ大使館、アジア局、欧州局などに勤務。平成十四年十一月に退官し、公募による予備選を経て同年十二月、自民党静岡県第七選挙区支部長に就任。平成十五年の衆院選で初当選（無所属）。

米田 建三氏 昭和二十二年（一九四七年）長野県出身。横浜国立大学商学部卒業。徳間書店に入る。代議士秘書、横浜市議を経て平成五年の衆院選で初当選。当選三回。十四年十月からの小泉改造内閣で内閣府副大臣。拉致問題にも精力的に取り組んできた。十六年一月から現職。

国民受けするタレント候補ではなく、政策もしっかりしていて、かつ従来の支持団体などに頼らず勝てる候補です。自民党には女性候補やフレッシュな若手候補がほとんどいなかった。これが最大の敗因ではないかと思っています。

米田 有権者が各党の政策や取り組みを正確に理解して投票したとはいえないという点は私も同感です。大学で教えている学生で今回投票した者に、「選挙の争点について説明せよ」と言っても誰も答えられないし、最大の焦点とされた年金問題についての両党の違いはまったく説明できない。これは学生だけではないでしょう。

しかし、有権者が政策を正確に理解していないということは、残念ながら今に始まったことではありません。とくに政権党の自民党にはこれまで、政策に対する評価は関係なく、一定の得票ができるという社会基盤があった。ところが、その支持基盤が大きく崩れているんです。

わが国の産業別の就業人口比率を国立社会保障・人口問題研究所の統計資料でみると、自民党が結党した一九五五年（昭和三十年）の第一次産業従事者は全体の四一・一％でした。第二次、第三次産業でも小規模自営業者は自民党の票田でしたから、合計で国民の半数以上が自民党の安定支持基盤だった。これが二〇〇〇年になると、第一次産業従事者はわずか五％です。五五年の八分の一です。

農村だけではなく、市街地でも旧来型の商店街は自民党の地盤でした。地域に自民党系のボスがいって、住民たちは概ねボスの意向に沿って行動するヒエラルキー社会だったけれど

も、それが完全に崩れた。政策がうまく国民に伝わらないという問題以上に、社会構造が変化し、その変化を意識した組織づくりや運動、候補者選びを進めてこなかったことが自民党の退潮の大きな理由だと思っています。

松原 今回の選挙結果で、自民党は民意を吸収できないことが証明されたと思います。

最高裁大法廷では今年一月、平成十三年七月の参院選での定数配分で五・〇六倍の「一票の格差」があったことについて、裁判官十五人のうち六人が違憲の判断をしました。さらに、合憲とした残り九人のうち四人は、「次回選挙も現状が漫然と維持されるなら、違憲の余地が十分にある」と指摘した「条件付き合憲」派でした。その「次回選挙」が今年七月の参院選でしたが、格差はさらに広がって最大で五・六一倍です。つまり、参院選自体が違憲状況で行われた可能性が極めて大きい。アメリカでは一票の格差はほとんどなく、日本以外の先進国で最大といわれているカナダでも一対一・二五です。一対五でも合憲と見なしているようでは、民主主義の後進国です。さらに、一人の投票が東京や大阪の五票に匹敵する地域には、補助金もやはり五倍配られているんですよ。つまり東京を中心とする都市部、東京や名古屋、大阪の人たちには、「おれたちは搾取されている」という不公平感がある。こうした状況の改善に不熱心である自民党の「なかなあ体質」に対する国民の怒りもあったと思います。

城内 確かに一対五という一票の格差はあまりにも大き過ぎる。ただ、中山間地域、郡部については、面積は考慮して

ほしいと思います。一人の人が背負っている自然や環境は大きいんですから。人口が少ないからというだけで、都市部と票をイコールにしているのかどうか疑問です。

松原 もし格差が是正されていたら、参院選では自民党は民主党にさらに大きな差を付けられて負けていたでしょう。ただ、いいたいののは、民主党に有利な定数配分にせよということではなく、一票の格差を是正できるのは民主党ではなくて自民党であり、そのことによって恩恵を蒙るし、評価もされるということです。私がもし自民党の執行部にいたら、一票の格差の是正を自分がやります。そのことによって民主党に対して都市部で有利に立てる。確かに旧来の自民党は無理だった。しかし、従来の自民党が最も手を触れたがらなかったところを自民党の議員が「おれがやる」といって、カナダ並みに一対一・二五程度にまでもっていったら、「自民党はすごい。肉を切らせて骨を断った」と見直されると思います。

自民党の敗因ですが、一つは現在進められている市区町村の合併にあると思います。市区町村は小規模なところほど議員の数が多く、自民党の得票率が異常に高い。つまり保守系の市区町村議員が自民党の国会議員に系列化されている。国会議員が、陳情を聞いたり、場合によってはち代や永代を配ったりといういろいろな意味で面倒を見て、選挙ではまさにマシーンとなる地方議員が存在した。それが市区町村合併によって、例えば二十人の議員がいる村議会の議員が合併して新たにできた自治体の議会では三人か四人になってしまう。つまり自民党の集票マシーンといわれていた市区町村議員の大

幅減少が現実に進んでいるんです。今後合併が進んで自民党の足腰は確実に弱っていきます。

もう一つは、年金・保険料の無駄遣いです。国民が怒っているのは制度の問題ではない。米田先生がおっしゃるように、国民は制度の優劣を判断できるほど熟知はしていないと思います。無駄遣いについては小学校の子供も「ふざけるな」と怒るほどリアルに実感しています。問題官庁の人間が罰則を受けたこともないし、背後で官僚を守っているのは自民党であると多くの国民は暗黙のうちに見抜いています。

いま社会保険庁の無駄遣いが問題になっていますが、雇用・能力開発機構では、雇用保険料で造った保養所など二千七十八カ所の施設を平均九九・六%で売却しています。これは犯罪ですよ。私が計算したら一番ひどいケースで、九九・九七%値引きしていました。一億円で造ったものを三万円で売っていた。そして誰も責任を取らない。それを放置してきた政権与党の自民党が責任をとるべきだという怒りがまず一つある。

そして最大の敗因は、自民党が国民党政党であることをやめたということではないかと思っています。

日本の国内総生産（GDP）五百兆円のうち二百兆円は競争のない社会のものだとしばしばいわれます。道路公園をはじめ住都公団が事業を発注するにあたって、随意契約をしたり、競争入札でもいい加減な入札だったりして、競争のない経済が日本の経済の半分ぐらいを占めるようになった。

旧ソ連を訪問し、ゴルバチョフ大統領の支援機関だった

「ユメモ」のメンバーと議論した際、「日本是我々が目指そうとしている新しい社会主義だ」と言われて驚きました。GDP 五百兆円のうち二百兆から二百五十兆円は競争のない経済で、彼らからみて半分社会主義のような日本が当時元気だった。そういう日本型社会がソビエト・ゴルバチョフのユメモ研究機関の目標だったんですね。

その社会主義が日本経済の非効率を進め、莫大な損失を出した社会保険庁の「グリーンピア計画」とか、雇用・能力開発機構のスパウザ小田原をはじめ二千七十件の保養所やスポーツ施設の無駄遣いへとつながっている。社会主義化を進めてきたのが自民党、特に農水族議員と利権派議員です。

理念なき「保守政党」

米田 国家、国民全体に有効かどうか、あるいは国土の均衡ある発展のためだけではなく、全国で万遍なく集票機能を維持するために、経済の原則から外れて非効率部門にまで手当をしてきたという政治ですね。

そうした問題提起は、政治家やマスコミ、有識者の間で何十年も前から行われてきたが、どこ吹く風で、必ず選挙では自民党が勝つという状況があった。ところが最近では違ってきた。ということは、人によって物事を認識する能力の差は当然あるけれども、しかし国民総体として、政策を見るようになったということはありませんね。盲目的に自民党に入れると

いうふうな人たちが減ってきたということです。

松原 私は憲法改正や教育基本法改正を訴えています、そう考えながら、松原仁を、民主党を支持してくれる有権者がいるわけです。かつては自由主義、市場経済を守るのが自民党の専売特許でしたが、もはや違います。市場経済を守るということも、憲法改正も民主党の多くの議員が言い始めている。つまり、自民党のいい部分については民主党も同じように主張する一方、自民党の悪い部分を民主党は持っていない。われわれは利権を残念ながら持ち得ていない。そうなる」と自民党のマイナス面だけが有権者に目立つ。

城内 参院選で、民主党が自力で勝ったのかというと、やはり敗失の部分が多かったのではない。確かに比例で「民主党」と書く人は多かったかもしれないけれども、比例の上位当選者には労働組合出身者がずらりと並んでいます。あまり深く考えずに、自民党には投票したくないから民主党だという非常に消極的な理由で投票をした人がかなり多かったのではないかなと思います。

松原先生は自民党は国民政党ではないとおっしゃいましたけれども、私はいの意味でも悪い意味でも国民政党であると思っています。ずっと与党であつたからです。私はむしろ、自民党には国家安全保障や外交の問題、憲法と教育基本法の改正、靖国神社の参拝問題といった国家の基軸となる政策や真正保守の国家観、国家的ビジョンを前面に打ち出す政党になつてほしいと思っています。しかし、国民政党、責任政党であるがゆえに、農業従事者、水産業従事者、中小企業、あ

るいは各種団体、経済団体から医師、歯科医師の方々の団体まで全方位的に見ながらやってきた。そのことが限界に来ていのではないかと思うんです。与党である限り責任ある国民政党であることはもちろん重要ですが、破綻しかかっているのではないかと思います。

米田 全方位を見ながらやってきた。表現は違うけど、松原さんの指摘とある意味で認識は同じですね。

城内 先ほど産業構造の話が出ましたが、先進国、とくに欧米先進国ほど生産者がしつかりしているのに、日本の現状はこれでもいいのかという問題意識を持っています。食糧自給率でアメリカは一〇〇％を超えています。フランスも一〇〇％を超えているし、ドイツも九八・九九％です。産業革命発祥の地のイギリスですら七〇％です。第一次産業がしつかりとしている。では日本はどうかというところ、もはや後戻りできないほど消費者社会に移行してしまっている。個人の国家観としては、バランスのとれたサプライサイドを強化していく必要があると考えています。

松原 その通りで、生産者を重視し、食糧自給率を高めることは極めて重要です。しかるに自民党は政策として外国の食糧を輸入して食糧自給率を下げてきた。本来守るべきものを守つてこなかったんです。私も自民党にかつて籍を置いた者だけれど、自民党はやるべきことをやっていない。

靖国問題で、中国がしきりに問題視しているA級戦犯を誰が決めたのかといえ、あの違法なる東京裁判です。日本の軍隊は連合国に無条件降伏したけれども、政府は無条件降伏

していなかったのに、東京裁判も受け入れた。しかし当時はやむをえないとしても、その後の半世紀の間に、自民党が政権政党であるならば、東京裁判の違法性や問題点、無実の人がどれほどB・C級戦犯で殺されたのかを検証するべきだった。しかしそれをやってこなかった。そのツケが今のさまざまな問題になっているわけだ。

食糧自給率も、生産者にお金はほとんどばらまいて甘やかしてきたけれども、競争力を身につけさせて欧米に負けないうぐらいに高めようという国家戦略を欠いていた。本来必要なことをやらずに、やらなくてもいいようなことをやってきたために、日本の中に社会主義的要素を育ててしまった。

米田 日本 の国全体を有権者が見ながら投票行動をする、そこまで有権者全体が賢明になっているかというと、そうではないけれども、かつてなく有権者が自分の意見を持つような時代になったことは間違いない。間違いないなかで、自民党が実は総体として一丸となって何かの理念を進めていく党では現実にはない。日頃のとくに地方の支持者の思いというの、は、政権党であるからいろいろ陳情を聞いてもらえるんだという要素が大きかったこともまた事実でしょう。そういうサービスがだんだんできなくなる社会になってくると、当然自民党は弱体化しますよ。

城内 自民党は与党であり続けてきたために、有権者の意志をそのまま反映する政策、農業分野でいえば生産者を育てて将来の競争力を高めるのではなく、補助金給付という現状維持の守りの発想になるんです。健全な政権交代がなかった

ことによる不幸だと思います。私が自民党に入って思ったのは、政権を維持するためには何でもありの政党だということです。私のように候補者の公募をして予備選挙を実施して選ばれた、本来ならば最も正当性のある自民党の公認候補者を比例に回そうとした。私はそれを蹴つたために無所属になり、同じ選挙区から立候補した保守新党の党首に、与党であるというだけの理由で自民党推薦を出した。かなり早い時点で、保守新党党首と山崎拓幹事長（当時）との間で「城内外し」の密室談合があったと聞いています。説明ができないようなことでも平気でやるところが問題だとは思っています。

松原 日歯連による一億円のヤミ献金事件も、事務担当者一人を逮捕して捜査が終わった。しかし捜査とは別に、自民党内からなぜ、批判の声が起きないのか。城内さんとか、若手が決起しなければいけない時期に来ていると思うんです。昔だったらまだ決起する人もいたはずですが、やはり自民党の活力自体が落ちている。

米田 自民党が日本における保守の最大の担い手であろうとするならば、松原さんが触れたような教育基本法の問題、極東軍事裁判の判決に起因する日本の戦後国是の根本的見直しを自民党こそ党一丸となって主張しなきゃならない。しかし、国会議員に限っても、さしたる理念もないのに、自民党から出やすいから自民党代議士になった人も残念ながらいる。一方で民主党は伝統的戦後左翼グループを引きずっているし、国を担う健全な保守勢力が有権者から見えなくなっていると思います。

松原 自民党が参院選で負けた理由の一つに、自民党の最も熱心な支持者の間にさえ小泉首相に裏切られたという失望感が広がったことがあったと思います。そういう人たちは最初小泉首相に期待していたんですよ。平成十三年の総裁選の際、首相は公約として八月十五日に靖国神社に参拝すると明言した。ところが結果的に十三日に行った。十三日に行くのなら、「何があっても十五日に行く」なんて言わなきゃいい。言っておいて中国や韓国との不当な内政干渉に屈して十三日に前倒ししたことで、「日本は中国や韓国の風下か」と本来の自民党、小泉支持者が呆れてしまった。北朝鮮との国交正常化に前のめりになっていることも不信を買っています。

地方議員という人々

米田 平準化、調整型の政治、悪くいうと全国すべての集票マシーンに手当てをするという政治が行き詰まったということなんだけれども、少し視点を変えて、ではそういう危機感を自民党組織総体が持っているか考えてみたい。地方組織にそういう認識があるのか。ひいては自民党は結党以来、本当に保守の理念を総体として内包している党だったのか。

私自身の体験から得た理解を申し上げるならば、実は圧倒的多数の自民党支持者は、保守としての政策や理念ではなくて、ムラ社会の一員として自民党を支持している。ここでの

ムラ社会とは、農村的な社会というイメージだけではなく、さまざまな関係、悪くいえばしがらみに縛られた集団のことです。業界団体もそうです。

私は十七年前に横浜市議から政治家としてスタートしました。当時、圧倒的多数の市議は、横浜の発展に伴って市域に編入された近郊の旧農村地帯の人間でした。旧農村地帯といっても、極めて新住民の流入の多い、都市型住民が圧倒的に多い地域です。ところが現在でも調べてみると、横浜市議の圧倒的多数が旧農村社会の地主階級です。つまり自民党の中核は、都市部においても旧農村社会の住民というわけです。だから選挙戦では、いまや消え去った幻の地図の上で戦いを開始することになる。候補者になるには、旧農村社会に受け入れてもらわなくてはならない。挨拶回りをする家の順がまず決まっている。序列があつて、本家、分家もある。市議に出ることが決まった時に、「あの地区の後援会の支部長をあの人がお願いしたい」といったら、「だめだ。あそこは元小作農で村のリーダーの家じゃないんだ」と言われたこともあります。いろんな人の話を聴いても、大都市部、とくに都心ではなく郊外において旧農村社会の伝統の中に自民党組織がある。

候補者選びも、基本的に能力を重視したものではない。地域の資産家で適齢期の人がいると、農村社会の自民党幹部が、「お宅のせがれさん、そろそろ県会に出ませんか。市会に出ませんか」と口説く。私は代議士の秘書も経験していま

したが、候補者としての有利な条件でもなんでも無い。地元出身ではない、流れ者だ、他所もんだと非難される。こういう次元から出発するわけです。大多数の都市住民を視野に入れない戦いでまず精力を費やしてしまう。大都市の自民党がジリ貧になるわけです。

松原 昔、地主だった人とかが幹部をやっている。新住民はそこに入れないんですよ。よそ者は入るな。他所から来たやつはムラ社会で発言するな。こういうことですよ。

幕末にたとえて申し訳ないけれど、小泉首相は第十五代將軍慶喜で、自民党は江戸幕府。江戸幕府というのは図体でかいし、誰も崩せないと思ってたんですよ。ところが構造的には弱っていて、ある瞬間にガラツとこっちやうわけです。あの時は薩長土肥が倒幕で結果した。民主党がその役割を担うかどうかはこれから我々も問われるけれど、勝海舟が出てきて幕藩体制を維持しようとしても、因習だ、しきたりだという話でなかなか思うようにはいかない。

米田 同感で、小泉首相というああいいうキャラクターで自民党は一時的に息を吹き返したように見えたけれども、長期低落には歯止めがなかったし、長期低落をもたらしした構造的な要因はなんら変わってない。しかもそれが国民の目に露わになってきたことは間違いないですね。

保守の大黒柱というのは自民党の売りだったが、志ある国会議員、国難を救った立派な政治家、戦後大勢いたと思うが、そういう人たちが保守政治を担ってきた。しかし党総

体、とくに末端の党員に、そんな理念があったのか。政権党だからというだけで寄ってきた人の集まりだったのではない。か。このことをしつかり見据えんといかんと思うんですね。

私の体験でも、横浜に選挙基盤を持っていた時代に、自分の後援会の幹部で、かつ自民党の地域の重鎮に、「あなたは自民党の幹部だろう。娘さんや息子さんもおれの青年部に入られて活動させてくれ」と頼んだことがあった。すると、その幹部は真顔で、「先生、息子は自動車会社勤務なんだ。だから民社党なんだよ。娘は区役所勤務だから社会党だ」と言う。「じゃああなたはなぜ自民党なの」と尋ねると、「おれは農協だから自民党だ」と。つまり、みんな自分の理念ではなく、置かれてある場所に順応して政治意思を決めるのが当然だと思っているわけ。

もう一つ、まだ自民党の勢いがいいと思われていた頃の話で、旧民社党の有力な市会議員が、「参ったよ。古くからの幹部が後援会を抜けるといつてきた」という。聴くと、「小作だった家の人だけれども、都市化で土地が売れて金が入った。庭にマンションを建てて資産持ちになり、ライオンズクラブに入った。そしてライオンズを卒業してロータリークラブに入った。いよいよ集大成で自民党に入ることにしましたと言われた」とって（笑い）。その人にとって、自民党はロータリーの次のステップ、小金持ちの名士のサロンにしか過ぎない。民主党が政権の座に五年間ついたら、こういう人たちは政権党という看板につられて民主党に行きますよ。

党の末端には、政権党だからといって寄ってきた人が相当いる。自民党にも、党を挙げて理念や政策を議論し、党の質を向上させる努力をせずに、とにかく議員も集票マシーンでいてくれればいいんだと放置してきた怠慢があったんだと思います。

改革はまず候補者選定から

城内 そうですね。自民党は保守の理念の再構築が求められている。教育基本法や憲法の改正、国防問題とか、靖国神社の問題とか、松原先生がおっしゃる東京裁判をどう見るかについて踏み絵を踏ませて、候補者を選ぶということをしていかななくてはならない。

松原 しかし、私の地元の品川なら、自民党はホップがPTA会長、ステップは町会長で、ジャンプが区議会議員と決まっている。自殺した衆議院議員の新井将敏さんの秘書が区議会議員選に出るといったら、「ばか野郎、PTAも消防団もやらないで、町会長もやらないで、いい加減にしろ」と怒られたって（笑）。逆にいえば、PTAや消防団から町会長を経て自民党区議会議員というコースは堅固なヒエラルキーとしてみんな理解していた。ところが今やそうでもない。

「自民党の区議会議員なんて、かっこよくない」と敬遠され、若々しい夢をもつ保守の人に議員のなり手すらいなくなつて

きている。自民党はだんだんと落ちぶれていきますよ。

米田 とくに都市部ではね。自民党は全体としては、理念なき大集団であつたことは間違いない。その結果として、いまだに選挙時の票のとりまとめ依頼で地方議員に金を渡す事件が後を絶たない。昨年の衆院選でも、埼玉や愛知でそういう事件が発覚しました。渡すやつも悪いかもしれないが、もらつて当然と考えている理念なき地方議員もタチが悪い。保守の理念に燃えて地方議員になつたんじゃないやなくて、地域社会の手順を踏んでPTAの会長をやつたから次は区議とか、お金が溜まつたから自民党に入りますという地方議員が、「俺は苦勞して地方議員になつた。お前が国会を狙うなら金払えよ」という話でしょう。

松原 それが自民党の抱える大きな問題なんですよ。

米田 いや、民主党でも選挙違反はありましたよ。

松原 ただ規模が違う（笑）。

城内 私の選挙区について言うと、米田、松原両先生がおっしゃるケースとは違う気がします。よそ者であつても志さえ高ければ候補者として受け入れてくれます。地方議員の方々は一生懸命無所属候補の私を応援してくれました。お金で動くような方はいないと思います。私は他よりも恵まれているのかもしれないが。

米田 日本の保守の大黒柱だったはずの自民党という大木の根っこが、あるいは木の中身がボロボロになっている。では、どうやって再生をしていくのか。城内さんは党改革を目